

2025年度 昭和大学（Ⅱ期）

【講評】

例年通り，大問4題で出題された．昨年同様，小問集合は2題で，難易度に大きな変化はなかった．全体で70%の得点を目指したい．以下，大問ごとに特徴を述べる．

① 小問集合（複素数と方程式，複素数平面／数Ⅱ微分法・積分法）【やや易】

(1) は実数係数方程式の虚数解を処理し，求まった複素数に対してド・モアブルの定理による計算を行う問題である．
(2) は x 切片や変曲点の条件から3次関数を確定し，定積分計算を行う（対称性を利用すると楽に解ける）．いずれも落とせない問題である．

② 小問集合（三角関数／図形と計量／数Ⅲ積分法／三角関数）【標準】

(1) は加法定理，(2) は三角形の形状決定，(3) は定積分計算，(4) は三角方程式の解の存在と，いずれも典型問題であった．(2) はやや式変形に苦戦するかもしれないが，得点しやすい問題が多かった．

③ 数Ⅲ微分法／数Ⅲ積分法【標準】

(1) は接線・法線の方程式を求めるだけである．(2) は面積で，グラフは単純で定積分も標準的な計算量である．また，最後の最小値は，相加相乗で求めることができる．解答時間が不足していなければ，得点しやすい問題だろう．

④ 場合の数・確率【標準】

I 期に続き，確率の最大値を求める問題であった．事象も複雑でなく，設問による誘導があり，計算も標準的であることから，ここも得点したい問題である．

【解答】

① (1)(1-1) $a = -10$, $b = -2$ (1-2) -1

(2)(2-1) $\alpha = -1$, $\beta = 1$, $\gamma = 3$, (2-2) $a = -3$, $b = -1$, (2-3) 0

② (1) $\frac{3}{5}$, (2) 「 A を直角とする直角三角形」または「 C と B が一致する二等辺三角形」

(3) $-\frac{14}{15}$, (4)(4-1) $0 \leq y \leq 2$, (4-2) $0 \leq a \leq \frac{1}{2}$

③ (1) $l: y = \frac{ae}{2}x + \frac{e}{2}$, $m: y = -\frac{2}{ae}x + \frac{2}{a^2e} + e$,

(2) $S(a) = \frac{e(e-1)^2}{4}a + \frac{1}{a}$, $a = \frac{2}{\sqrt{e}(e-1)}$ のとき，最小値 $(e-1)\sqrt{e}$

④ (1) $\frac{72}{425}$, (2) $\frac{(n-1)(52-n)}{4(14-n)(n+1)}$, (3) $p(3) < p(4)$, (4) $p(13) > p(14)$, (5) 6

お問い合わせは ☎ 0120-302-872

<https://keishu-kai.com/>

1

i は虚数単位とする。次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみを解答欄に記入せよ。

- (1) a, b は実数とする。3 次方程式 $4x^3 + ax^2 + 5x + b = 0$ の 1 つの解が $\alpha = \frac{1+i\sqrt{3}}{4}$ であるとし、残りの解を β, γ とする。

(1-1) 実数 a, b の値を求めよ。

(1-2) $(\beta\gamma)^{2025}$ の値を求めよ。

- (2) a, b は実数とする。 $f(x) = x^3 + ax^2 + bx + 3$ について、 $y = f(x)$ のグラフは $x = \alpha, \beta, \gamma$ ($\alpha < \beta < \gamma$) で x 軸と交わる。また、 $f(x)$ は $x = 1$ に変曲点をもち、 $\alpha + \beta = 0$ を満たす。次の各問いに答えよ。

(2-1) α, β, γ の値を求めよ。

(2-2) 実数 a, b の値を求めよ。

(2-3) $\int_{\alpha}^{\gamma} f(x) dx$ を求めよ。

(解説)

- (1) a, b は実数であるから、3 次方程式 $4x^3 + ax^2 + 5x + b = 0$ が $\frac{1+i\sqrt{3}}{4}$ を解に持つとき、残りの解の一方は $\frac{1-i\sqrt{3}}{4}$ であり、もう一方は実数である。よって、 $\beta = \frac{1-i\sqrt{3}}{4}$, γ を実数として考える。

解と係数の関係から、

$$\begin{cases} \frac{1+i\sqrt{3}}{4} + \frac{1-i\sqrt{3}}{4} + \gamma = -\frac{a}{4} \\ \frac{1+i\sqrt{3}}{4} \cdot \frac{1-i\sqrt{3}}{4} + \frac{1-i\sqrt{3}}{4} \cdot \gamma + \gamma \cdot \frac{1+i\sqrt{3}}{4} = \frac{5}{4} \\ \frac{1+i\sqrt{3}}{4} \cdot \frac{1-i\sqrt{3}}{4} \cdot \gamma = -\frac{b}{4} \end{cases} \quad \therefore \begin{cases} \frac{1}{2} + \gamma = -\frac{a}{4} & \cdots \cdots ① \\ \frac{1}{4} + \frac{\gamma}{2} = \frac{5}{4} & \cdots \cdots ② \\ \frac{\gamma}{4} = -\frac{b}{4} & \cdots \cdots ③ \end{cases}$$

② から $\gamma = 2$ であり、これを ①, ③ に代入すると、 $a = -10$, $b = -2$

また、

$$\begin{aligned} (\beta\gamma)^{2025} &= \left(\frac{1-i\sqrt{3}}{4} \cdot 2 \right)^{2025} = \left\{ \cos\left(-\frac{\pi}{3}\right) + i\sin\left(-\frac{\pi}{3}\right) \right\}^{2025} \\ &= \cos\left(-\frac{2025}{3}\pi\right) + i\sin\left(-\frac{2025}{3}\pi\right) = \cos(-675\pi) + i\sin(-675\pi) \\ &= \cos(-\pi) + i\sin(-\pi) = -1 \end{aligned}$$

- (2) $y = f(x)$ のグラフが $x = \alpha, \beta, \gamma$ で x 軸と交わることから、方程式 $f(x) = 0$ は $x = \alpha, \beta, \gamma$ を解に持つ。

解と係数の関係から、

$$\begin{cases} \alpha + \beta + \gamma = -a \\ \alpha\beta + \beta\gamma + \gamma\alpha = b \\ \alpha\beta\gamma = -3 \end{cases}$$

$$\alpha + \beta = 0 \text{ より, } \begin{cases} \gamma = -a & \cdots \cdots ④ \\ \alpha\beta = b & \cdots \cdots ⑤ \\ \alpha\beta\gamma = -3 & \cdots \cdots ⑥ \end{cases}$$

ここで、 $f'(x) = 3x^2 + 2ax + b$, $f''(x) = 6x + 2a$

$y = f(x)$ が $x = 1$ に変曲点にもつことから、 $f''(1) = 6 + 2a = 0 \quad \therefore a = -3$ が必要である。

これと④から、 $r=3$

⑥に代入して、 $\alpha\beta=-1$

これを⑤に代入すると $b=-1$

また、 $\alpha\beta=-1$, $\alpha+\beta=0$ より、解と係数の関係から、 α, β は $t^2-1=0$ の2解である。

これを解くと $t=\pm 1$ $\therefore \alpha=-1, \beta=1$ ($\because \alpha<\beta$)

以上をまとめると、

$$\alpha=-1, \beta=1, r=3, a=-3, b=-1$$

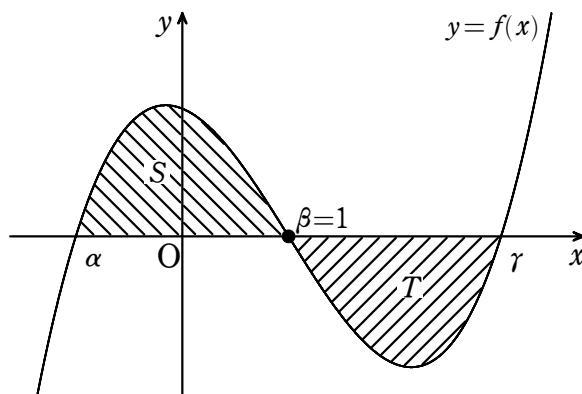
であり、このとき確かに $f''(x)$ は $x=1$ の前後で符号変化する。

また、 $\beta=1$ より、 $y=f(x)$ は x 軸との交点で変曲点を持つ。

よって、右図の面積を S, T とすると、3次関数のグラフの

変曲点に対する対称性から $S=T$ であり、

$$\begin{aligned}\int_{\alpha}^r f(x) dx &= \int_{\alpha}^{\beta} f(x) dx + \int_{\beta}^r f(x) dx \\ &= S + (-T) \\ &= 0\end{aligned}$$



別解 (2-3) の定積分は、対称性を用いずに計算すると、次のようになる。

$$\begin{aligned}\int_{\alpha}^r f(x) dx &= \int_{-1}^3 (x+1)(x-1)(x-3) dx = \int_{-1}^3 (x+1)((x+1)-2)(x-3) dx \\ &= \int_{-1}^3 \{(x+1)^2(x-3) - 2(x+1)(x-3)\} dx \\ &= -\frac{1}{12}(3+1)^4 + 2 \cdot \frac{1}{6}(3+1)^3 \\ &= -\frac{4^3}{3} + \frac{4^3}{3} = 0\end{aligned}$$

ただし、定積分の公式には、以下の公式を用いた。

$$\int_{\alpha}^{\beta} (x-\alpha)(x-\beta) dx = -\frac{1}{6}(\beta-\alpha)^3, \quad \int_{\alpha}^{\beta} (x-\alpha)^2(x-\beta) dx = -\frac{1}{12}(\beta-\alpha)^4$$

2

次の各問いに答えよ。ただし、答えは結果のみを解答欄に記入せよ。

- (1) $\tan \alpha = 2$, $\tan \beta = 3$, $\tan \gamma = 4$ とする。このとき $\tan(\alpha + \beta + \gamma)$ の値を求めよ。
- (2) $\triangle ABC$ の 3 つの角 $\angle A$, $\angle B$, $\angle C$ の大きさをそれぞれ A , B , C とする。 A , B , C について次の等式が成り立つとき、この三角形はどのような形をしているか句読点を含め 50 文字以内で数式を用いずに簡潔に説明せよ。

$$\sin A \sin B \cos B - \sin A \cos B \sin C - \sin B \sin C + 1 = \cos^2 C$$

- (3) 次の定積分の値を求めよ。

$$\int_0^{\frac{\pi}{2}} (\cos 3x)(\sin 2x)(\tan x) dx$$

- (4) 次の問いに答えよ。

(4-1) $f(x) = \sin x + \cos x$ について、 $y = \{f(x)\}^2$ の値域を不等式で表せ。

(4-2) a は実数の定数とする。次の方程式を満たす実数 θ が存在するための a の範囲を不等式で表せ。

$$1 + 2\sin \theta \cos \theta - 2a \sin \left(\theta + \frac{\pi}{4} \right) - 6a = 0$$

解説

$$(1) \text{ 加法定理から, } \tan(\alpha + \beta) = \frac{\tan \alpha + \tan \beta}{1 - \tan \alpha \tan \beta} = \frac{2 + 3}{1 - 2 \cdot 3} = -1$$

再び加法定理から,

$$\tan(\alpha + \beta + \gamma) = \tan\{(\alpha + \beta) + \gamma\} = \frac{\tan(\alpha + \beta) + \tan \gamma}{1 - \tan(\alpha + \beta) \tan \gamma} = \frac{-1 + 4}{1 - (-1) \cdot 4} = \frac{3}{5}$$

$$(2) \sin A \sin B \cos B - \sin A \cos B \sin C - \sin B \sin C + 1 - \cos^2 C = 0$$

$1 - \cos^2 C = \sin^2 C$ より,

$$\sin A \sin B \cos B - \sin A \cos B \sin C - \sin B \sin C + \sin^2 C = 0$$

$$\sin^2 C - (\sin A \cos B + \sin B) \sin C + \sin A \sin B \cos B = 0$$

$$(\sin C - \sin A \cos B)(\sin C - \sin B) = 0$$

$$\therefore \sin C = \sin A \cos B \quad \text{または} \quad \sin C = \sin B$$

$AB = c$, $BC = a$, $CA = b$ とし、三角形 ABC の外接円の半径を R とする。

(I) $\sin C = \sin A \cos B$ のとき

$$\text{正弦定理より } \frac{a}{\sin A} = \frac{c}{\sin C} = 2R \quad \therefore \sin A = \frac{a}{2R}, \sin C = \frac{c}{2R}$$

$$\text{余弦定理より } \cos B = \frac{a^2 + c^2 - b^2}{2ac}$$

これらを代入すると,

$$\frac{c}{2R} = \frac{a}{2R} \cdot \frac{a^2 + c^2 - b^2}{2ac}$$

$$2c^2 = a^2 + c^2 - b^2 \quad \therefore c^2 = a^2 + b^2$$

(II) $\sin C = \sin B$ のとき

正弦定理により $\sin B = \frac{b}{2R}$, $\sin C = \frac{c}{2R}$ が成り立つから、これらを代入して

$$\frac{b}{2R} = \frac{c}{2R} \quad \therefore b = c$$

以上 (I), (II) から $\triangle ABC$ は

「 A を直角とする直角三角形」または「 C と B が一致する二等辺三角形」

別解 正弦定理, 余弦定理を用いずに三角関数処理してもよい.

(I) $\sin C = \sin A \cos B$ のとき

$C = \pi - (A + B)$ より,

$$\sin(A + B) - \sin A \cos B = 0$$

$$(\sin A \cos B - \cos A \sin B) - \sin A \cos B = 0$$

$$\therefore \cos A \sin B = 0$$

$$\sin B \neq 0 \text{ より, } \cos A = 0 \quad \therefore A = \frac{\pi}{2} \quad (\because 0 < A < \pi)$$

(II) $\sin C - \sin B = 0$ のとき

$\sin C = \sin B$ であり, $0 < B < \pi$, $0 < C < \pi$ であるから

$$C = B, \pi - B$$

となるが, 後者は $B + C = \pi$ となり不適.

(I), (II) から $\triangle ABC$ は

「 A を直角とする直角三角形」または「 C と B が一致する二等辺三角形」

(3) $\tan x$ は $x = \frac{\pi}{2}$ で定義されないから, 本問は出題ミスと思われる. ただし, 被積分関数を $\tan x$ がない形に変形すれば値を求めることができるため, 以下そのときの解答を示す.

$$\begin{aligned} & \int_0^{\frac{\pi}{2}} (\cos 3x)(\sin 2x)(\tan x) dx \\ &= \int_0^{\frac{\pi}{2}} (4\cos^3 x - 3\cos x) \cdot 2\sin x \cos x \cdot \frac{\sin x}{\cos x} dx \\ &= 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos x (4\cos^2 x - 3) \sin^2 x dx = 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos x (1 - 4\sin^2 x) \sin^2 x dx \\ &= 2 \int_0^{\frac{\pi}{2}} \cos x (\sin^2 x - 4\sin^4 x) dx = 2 \left[\frac{1}{3} \sin^3 x - \frac{4}{5} \sin^5 x \right]_0^{\frac{\pi}{2}} \\ &= 2 \left(\frac{1}{3} - \frac{4}{5} \right) = -\frac{14}{15} \end{aligned}$$

補足 和積変換を利用して積分計算できる形に変形してもよい.

$$\begin{aligned} \cos 3x \sin 2x \tan x &= \cos 3x \cdot 2\sin x \cos x \cdot \frac{\sin x}{\cos x} = 2\cos 3x \sin^2 x \\ &= \cos 3x (1 - \cos 2x) = \cos 3x - \cos 3x \cos 2x \\ &= \cos 3x - \frac{1}{2}(\cos 5x + \cos x) \end{aligned}$$

以下, 定積分計算を行うだけである.

(4) (4-1)

$$f(x) = \sin x + \cos x = \sqrt{2} \sin\left(x + \frac{\pi}{4}\right)$$

であるから, $-\sqrt{2} \leq f(x) \leq \sqrt{2}$

よって, $y = \{f(x)\}^2$ の値域は $0 \leq y \leq 2$

(4-2) $t = f(\theta) = \sin \theta + \cos \theta$ とすると, $t^2 = 1 + 2\sin \theta \cos \theta \quad \therefore 2\sin \theta \cos \theta = t^2 - 1$

また, $\sin\left(\theta + \frac{\pi}{4}\right) = \sin \theta \cos \frac{\pi}{4} + \cos \theta \sin \frac{\pi}{4} = \frac{1}{\sqrt{2}}t$

これらを用いると方程式は

$$1 + t^2 - 1 - 2a \cdot \frac{1}{\sqrt{2}}t - 6a = 0$$

$$t^2 - \sqrt{2}at - 6a = 0 \quad \dots\dots \textcircled{1}$$

(4-1) より $-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}$ であるから, t の方程式 ① が $-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}$ の範囲で実数解を持つときの a の範囲が求めるものである.

① を変形すると $t^2 = \sqrt{2}a\left(t + \frac{6}{\sqrt{2}}\right) \quad \therefore \frac{t^2}{\sqrt{2}} = a(t + 3\sqrt{2})$

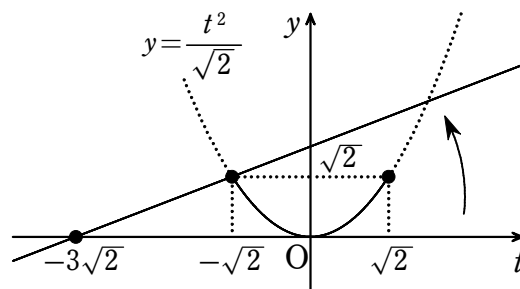
2つのグラフ $\begin{cases} y = \frac{t^2}{\sqrt{2}} \\ y = a(t + 3\sqrt{2}) \end{cases}$ が $-\sqrt{2} \leq t \leq \sqrt{2}$ の範囲に共有点を

もつときの実数 a の範囲を求めれば良い.

直線 $y = a(t + 3\sqrt{2})$ が $(-\sqrt{2}, \sqrt{2})$ を通るとき

$$\sqrt{2} = a(2\sqrt{2}) \quad \therefore a = \frac{1}{2}$$

右の図から, 求める a の範囲は $0 \leq a \leq \frac{1}{2}$



3 $a > 0$ とする. $x \geq 0$ における関数 $f(x) = e^{\sqrt{ax}}$ と, 座標平面の曲線 $C: y = f(x)$ について, 次の問いに答えよ.
ただし, 答えは結果のみを解答欄に記入せよ.

- (1) C 上の点 $P\left(\frac{1}{a}, f\left(\frac{1}{a}\right)\right)$ における接線 l の方程式を求めよ. また, P を通り l に直交する直線 m の方程式を求めよ.
- (2) 曲線 C , 直線 $y=1$ および直線 m で囲まれた図形の面積 $S(a)$ を求めよ. また, $a > 0$ における $S(a)$ の最小値とそれを与える a の値を求めよ.

(解説)

(解答)

$$(1) f'(x) = \frac{a}{2\sqrt{ax}} e^{\sqrt{ax}} \quad \dots\dots ①$$

$$f\left(\frac{1}{a}\right) = e, \quad f'\left(\frac{1}{a}\right) = \frac{ae}{2} \quad \text{であるから, 接線 } l \text{ の方程式は,}$$

$$y = \frac{ae}{2} \left(x - \frac{1}{a}\right) + e \quad \therefore l: y = \frac{ae}{2}x + \frac{e}{2}$$

$$\text{また, } f'\left(\frac{1}{a}\right) = \frac{ae}{2} \neq 0 \text{ より, 法線 } m \text{ の方程式は,}$$

$$y = -\frac{2}{ae} \left(x - \frac{1}{a}\right) + e \quad \therefore m: y = -\frac{2}{ae}x + \frac{2}{a^2e} + e$$

$$(2) ① \text{ と } a > 0 \text{ より } f'(x) > 0 \text{ であり, } f(0) = 1$$

直線 m と $y=1$ の交点の x 座標は,

$$1 = -\frac{2}{ae}x + \frac{2}{a^2e} + e$$

$$\frac{2}{ae}x = \frac{2}{a^2e} + e - 1 \quad \therefore x = \frac{1}{a} + \frac{ae^2}{2} - \frac{ae}{2}$$

また, 直線 m の傾きが負であることから, $S(a)$ は右図の斜線部である.

$$\begin{aligned} S(a) &= \int_0^{\frac{1}{a}} f(x) dx - \frac{1}{a} \cdot 1 + \frac{1}{2} \left(\frac{1}{a} + \frac{ae^2}{2} - \frac{ae}{2} - \frac{1}{a} \right) (e-1) \\ &= \int_0^{\frac{1}{a}} e^{\sqrt{ax}} dx - \frac{1}{a} + \frac{e(e-1)^2}{4} a \end{aligned}$$

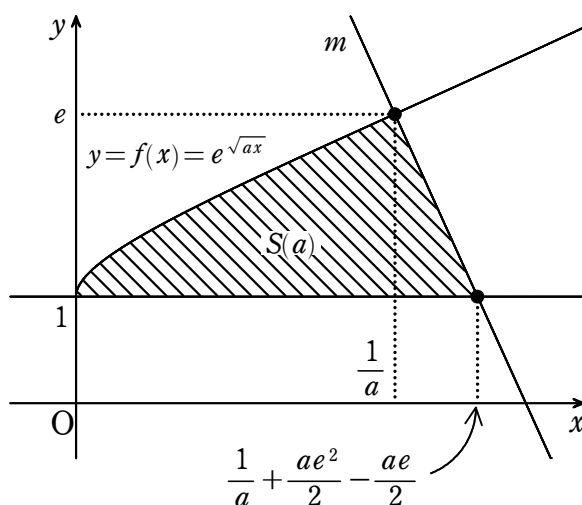
$$\text{ここで, } \sqrt{ax} = t \text{ とおくと } ax = t^2 \text{ より, } adx = 2t dt \quad \therefore dx = \frac{2t}{a} dt$$

よって,

$$\begin{aligned} \int_0^{\frac{1}{a}} e^{\sqrt{ax}} dx &= \int_0^1 e^t \cdot \frac{2t}{a} dt = \frac{2}{a} \int_0^1 te^t dt \\ &= \frac{2}{a} \left[te^t \right]_0^1 - \frac{2}{a} \int_0^1 e^t dt = \frac{2e}{a} - \frac{2}{a} \left[e^t \right]_0^1 = \frac{2}{a} \end{aligned}$$

以上から,

$$S(a) = \frac{2}{a} - \frac{1}{a} + \frac{e(e-1)^2}{4} = \frac{e(e-1)^2}{4} a + \frac{1}{a}$$



$a > 0$ より $\frac{e(e-1)^2}{4}a > 0$, $\frac{1}{a} > 0$ であるから, 相加相乗平均の不等式より,

$$S(a) \geq 2\sqrt{\frac{e(e-1)^2}{4}a \cdot \frac{1}{a}} = \sqrt{e}(e-1)$$

等号は

$$\frac{e(e-1)^2}{4}a = \frac{1}{a} \Leftrightarrow a^2 = \frac{4}{e(e-1)^2} \quad \therefore a = \frac{2}{\sqrt{e}(e-1)} \quad (\because a > 0)$$

のときに成立する.

よって, $a > 0$ における $S(a)$ の最小値は, $a = \frac{2}{\sqrt{e}(e-1)}$ のとき, $\sqrt{e}(e-1)$

4 ジョーカーを除く 52 枚 1 組のトランプ（スペード、ハート、クラブ、ダイヤの 4 種の絵柄の 1 つと、1 から 13 の番号の 1 つが、それぞれ重複なく割り当てられた合計 52 枚のカード）がある。この中から無作為に n 枚のカードを選ぶ。2 枚だけが同じ数字で残りがすべて異なる数字である確率を $p(n)$ とする。ただし $n \geq 3$ とする。次の各問に答えよ。ただし、答えは結果のみを解答欄に記入せよ。

- (1) $p(3)$ を求めよ。
- (2) $\frac{p(n)}{p(n+1)}$ を求めよ。ただし $3 \leq n \leq 13$ とする。
- (3) $p(3)$ と $p(4)$ はどちらが大きい。適切な不等号を解答欄に記入せよ。
- (4) $p(13)$ と $p(14)$ はどちらが大きい。適切な不等号を解答欄に記入せよ。
- (5) $p(n)$ が最大となるときの n を求めよ。

解説

まず、 $p(n)$ を求める。

各絵柄のカードは 13 枚ずつあるから、 $15 \leq n$ のとき $p(n) = 0$ である。

よって、 $3 \leq n \leq 14$ とする。

同じになる数字の選び方は ${}_{13}C_1$ 通りで、それら 2 枚の絵柄の選び方は ${}_4C_2$ 通り、他の $n-2$ 枚のカードの数字の選び方は ${}_{12}C_{n-2}$ 通りで、それら $n-2$ 枚の絵柄の選び方は 4^{n-2} であるから、

$$p(n) = \frac{{}_{13}C_1 \times {}_4C_2 \times {}_{12}C_{n-2} \cdot 4^{n-2}}{{}_{52}C_n} = \frac{13 \cdot 6 \cdot {}_{12}C_{n-2} \cdot 4^{n-2}}{{}_{52}C_n} \quad \dots\dots ①$$

$$(1) \quad ①より, \quad p(3) = \frac{13 \cdot 6 \cdot {}_{12}C_1 \cdot 4^1}{{}_{52}C_3} = \frac{13 \cdot 6 \cdot 12 \cdot 4}{52 \cdot 51 \cdot 50} = \frac{13 \cdot 6 \cdot 12 \cdot 4}{26 \cdot 17 \cdot 50} = \frac{3 \cdot 12 \cdot 4}{17 \cdot 50} = \frac{3 \cdot 12 \cdot 2}{17 \cdot 25} = \frac{72}{425}$$

(2) ①より、 $2 \leq n \leq 13$ において、

$$\begin{aligned} \frac{p(n)}{p(n+1)} &= \frac{\frac{{}_{12}C_{n-2} \cdot 4^{n-2}}{{}_{52}C_n}}{\frac{{}_{12}C_{n-1} \cdot 4^{n-1}}{{}_{52}C_{n+1}}} = \frac{{}_{12}C_{n-2} \cdot 52 C_{n+1}}{4 \cdot {}_{12}C_{n-1} \cdot {}_{52}C_n} = \frac{\frac{12!}{(14-n)!(n-2)!} \cdot \frac{52!}{(51-n)!(n+1)!}}{4 \cdot \frac{12!}{(13-n)!(n-1)!} \cdot \frac{52!}{(52-n)!n!}} \\ &= \frac{(13-n)!(n-1)!(52-n)!n!}{4(14-n)!(n-2)!(51-n)!(n+1)!} = \frac{(n-1)(52-n)}{4(14-n)(n+1)} \end{aligned}$$

(3) (2) の式で $n=3$ とすると

$$\frac{p(3)}{p(4)} = \frac{2 \cdot 49}{4 \cdot 11 \cdot 4} = \frac{49}{88} < 1 \quad \therefore p(3) < p(4)$$

(4) (2) の式で $n=13$ とすると

$$\frac{p(13)}{p(14)} = \frac{12 \cdot 39}{4 \cdot 1 \cdot 14} = \frac{117}{14} > 1 \quad \therefore p(13) > p(14)$$

(5) (2) より, $2 \leq n \leq 13$ において,

$$\frac{p(n)}{p(n+1)} \geq 1 \Leftrightarrow \frac{(n-1)(52-n)}{4(14-n)(n+1)} \geq 1 \Leftrightarrow (n-1)(52-n) \geq 4(14-n)(n+1)$$

$$\Leftrightarrow 3n^2 + n \geq 108 \Leftrightarrow n(3n+1) > 108$$

$n(3n+1)$ は n について単調増加で,

$$6 \cdot (3 \cdot 6 + 1) = 114 > 108, \quad 5 \cdot (3 \cdot 5 + 1) = 80 < 108$$

であるから,

$$1 \leq n \leq 5 \text{ のとき } p(n) < p(n+1)$$

$$6 \leq n \leq 13 \text{ のとき } p(n) > p(n+1)$$

が成り立つ.

よって,

$$p(1) < p(2) < \cdots < p(5) < p(6) > p(7) > \cdots > p(13) > p(14) \quad \cdots \cdots \textcircled{2}$$

であるから, $p(n)$ が最大となるときの n は, $n = 6$

補足

(3), (4) より先に (5) を解いてしまえば, ② より

$$(3) \quad p(3) < p(4)$$

$$(4) \quad p(13) > p(14)$$

がわかる.